


Association for Protection of Marine Communities (AMCo)

Homepage : <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

「今月の海の生き物」 ウミタナゴ *Ditrema temmincki temmincki*

淡水魚のタナゴに似ている海産魚という意味の名前。脊椎動物門硬骨魚類スズキ目ウミタナゴ科に属する小型の魚。北海道南部以南の日本各地の藻場や岩礁地帯に生息する。胎生



で卵ではなく子供を産む魚として古来より有名で、安産のおまじないとして食べる地方もある。淡泊な白身で美味しいが、小骨が多く食べにくいこともあり、最近では魚屋で見かけることは少なくなった。秋に交尾し、翌年の春にアマモ場などで子供を出産する。一腹に生まれる子供は、数十匹。5~7cmほどに育った状態で生まれ、生まれた後すぐに親と同様の生活を始める。最近、ウミタナゴの青い型をマタナゴ、赤い型をアカタナゴと別種とする見解が出された。岩礁での磯釣りで簡単に釣れるので、釣りを楽しむ人にはおなじみの魚である。

(千葉県富津湾のアマモ場にて 向井 宏撮影)

- 目次 「今月の海の生き物」 ウミタナゴ
1. 海の生き物とその生息環境に関するニュース
 2. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報
 3. きらめく動物たちの命と海 久保田信の白浜だより（その8）
 4. 事務局便り
 5. 編集後記

「海の生き物を守る会」は、創立4周年を迎えましたが、まだまだ活動が軌道に乗ったとは言えません。これからも多くの仲間といっしょに、海の生き物とその環境を守るために、頑張ります。みなさまのご支援をよろしくお願いいたします。

1、海の生き物とその生息環境に関するニュース

【北海道】

●道内海水浴場 9ヶ所の放射性物質調査

北海道では、海水浴シーズンを控え、道内の9ヶ所の海水浴場で、福島第一原発の事故による放射能の影響を調査することを決めた。調査するのは、海水の放射性物質濃度と砂浜の空間放射線量。結果は随時、ホームページで公表するとしている。調査対象は、以下の海水浴場である。室蘭イタンキ浜（室蘭市）、親子岩ふれ愛ビーチ（日高管内様似町）、湯川（函館市）、元和台海浜公園（檜山管内乙部町）、ゴールデンビーチるもい（留萌市）、稚内市坂の下（稚内市）、ところ常南ビーチ（北見市）。石狩市の石狩浜は、すでに調査を終えた。その結果は、海水から放射性物質は検出されず、空間放射線量は、平常レベルであった。

【東北】

●放射性物質はいまのところ未検出 岩手県産水産物など

岩手県は、福島第一原発の事故以来初めて、6月24日に岩手県沿岸で漁獲された水産物について放射性物質を測定した結果、検出されなかったと発表した。測定したのは、釜石沖の底延縄で漁獲したミギガレイとキツネメバルの2種で、放射性ヨウ素と放射性セシウム。今後も毎月1-2回、沿岸の代表的な魚類などについて調査する予定である。

【関東】

●小笠原諸島が世界自然遺産に登録

パリで開かれた国連ユネスコ（教育科学文化機関）の世界遺産委員会は、東京都の小笠原諸島を世界自然遺産として登録することを決めた。日本では2005年の知床以来4件目。地元小笠原町では、世界遺産登録によって減少気味の観光客の増加を望んでいるが、知床などと違い週1往復の船便のみのアクセスの不便さが、世界遺産登録による観光客の抑制になるのか、それとも増便によって観光客の大幅な増加をもたらすのか、世界自然遺産に登録されることは、世界の宝として自然保護に努める責任が出てくることでもある。観光客の増加が小笠原の自然の崩壊につながるために小笠原が考えなければならないことは多そうだ。かりそめにも空港の建設というこれまでに出不出されては反対されてきた自然破壊の計画が、観光客の要求を受けた形で再現しないことを願う。

●「黒い水事件」を後世に伝えよう 浦安市で報告第2巻刊行

本州製紙江戸川工場からの工場排水で漁場が汚染され、浦安市沖の漁業権が放棄され、結局埋め立てて海を失うきっかけになった「黒い水事件」を後世に伝えようと、浦安市郷土博物館が、聞き書きを元とした報告書「ハマ記憶を明日へ」第2巻を刊行した。当時、この事件に翻弄された漁民の家族や同工場の元従業員らからもインタビューを行い、貴重な証言を収録している。インタビューと記録を担当したのは、博物館ボランティアの「浦安・聞き書き隊」で、事件から50年目の2008年に結成されてインタビューを開始した。第1巻は、漁業者など水産関係者からの証言で構成、今回の第2巻は、女性たちや子供たち、元工場従業員のほかに、水質検査を担当した水産試験場の元職員などからも聞き取りを行い、まとめた。このときの埋め立てで作られた浦安市の地域が今回の東日本大震災で液状化し、多大の損害を被っている。

●真珠形成の遺伝子を特定

(株)ミキモトと、東京大学の共同研究チームが、日本産アコヤガイの3万個ほどの遺伝子をほぼすべて解明し、真珠層を形成する時に働く遺伝子が52個もあることを発見した。アメリカの科学雑誌「プロスワン」に論文が掲載された。アコヤガイが作り出す真珠の輝きは、アコヤガイが貝殻の内部に作る真珠層を作るアラゴナイトとよばれる炭酸カルシウムの結晶が規則正しく並んで構成することが知られているが、その真珠層の形成に関与する遺伝子は、これまでほとんど解明されていなかった。遺伝子の研究は、「次世代シーケンサー」とよばれるシステムを用いて解析された。この成果は、アコヤガイの病気の問題を解決するにも役立ち、その他にも化粧品の開発や人間の骨形成に関連する病気の治療、新

材料の開発など応用範囲は広いと期待が寄せられている。

【北陸】

●連携排砂始まる 出し平・宇奈月ダム

富山湾の漁業に甚大な影響を与えたとして、沿岸の漁業者からの反対の声を抑えて、黒部川の関西電力出し平ダムと下流の宇奈月ダムの連携排砂が今年も6月23日に始まった。この排砂事業は、出し平ダムと宇奈月ダムに土砂が溜まり続けることによって、ダムの機能が低下することを防ぐ目的で行われる。今年も出し平ダムへの流入量が250立米に達したため、排砂実施基準を満たしたとして、関西電力北陸支社と国交省黒部河川事務所が、連携して出し平ダムと宇奈月ダムの排砂ゲートを開き、堆積した砂を水の流れ出押し流す「自然流下作業」を実施した。排砂目標は、約45万立米に確定、昨年の約3倍に設定した。沿岸の漁民は、ダムからの大量土砂排出で漁業に悪影響があると強く反発している。ダムは水のみでなく砂も大量に貯める。このことが、砂の沿岸への流入を阻害し、沿岸の砂浜や干潟の消失を招いている一方、ダムは溜まり続ける土砂のために機能が劣化し、ダムの寿命が短くなるため、ときどき大量に土砂を排出する必要がある、これが沿岸の海水の濁りなどで漁業に悪影響を与えている。ダムの持つ宿命的な問題点が、富山湾では鋭く問われている。

●富山湾の砂浜で貝殻拾い 岐阜の中学生

岐阜県関市の板取中学校の生徒16人が、富山県氷見市で宿泊体験学習を行い、松田江浜で貝殻を拾ったり、海浜植物園で貝殻を使ってクラフト制作を行うなどして、楽しんだ。関市は、海がないため、生徒たちは砂浜での貝殻拾いを心から楽しんだ様子だった。最近、学校教育から臨海学校などのフィールド体験が無くなり、近くに海があっても海を知らない子供や大人が増えている。このような企画が、もっと広く大きな規模で行われるようになれば、海の生き物の将来も危ういのではないだろうか。

●海浜植物ハマボウフウ、畑で試験栽培へ 有磯、氷見高 分布調査

富山県氷見市の有磯高校の生徒が、海浜植物「ハマボウフウ」の分布状況を調査した。ハマボウフウは、主に海岸の砂浜などに群生するセリ科の多年草で、近年、砂浜の侵食が進んで生息地が減少し、ハマボウフウも希少な植物になりつつある。一方、ハマボウフウは地元では刺身のつまとして利用されており、有磯高校では、試験栽培を行って、畑でハマ

ボウフウを栽培する方法を探ることを目指している。

【近畿】

●ウミガメ数十年ぶり上陸、産卵 すさみ、江須の川の海岸

和歌山県すさみ町江住の江須の川海岸に、甲羅の長さが約 80cm ほどの雌のアカウミガメが上陸し、産卵した。近くのエビとカニの水族館職員がアカウミガメの産卵と確認した。地元の人でも過去にあまり覚えが無く、お年寄りによると数十年ぶりとか。しかし、卵は不完全なものだけで、産卵は失敗だったと思える。しかし、アカウミガメは2-3週間したら同じ個体と同じ砂浜に産卵することも知られており、再び産卵に帰ってくることに地元では期待を寄せている。

【中四国】

●島根原発、クラゲで出力低下

島根県松江市の島根原子力発電所2号機の冷却用海水が、自動停止したため、中国電力は出力を手動で低下させたと発表した。冷却用海水が自動停止した理由は、海水からゴミを取り除く除塵機の金網にクラゲが多数張り付いたためという。中国電力によると「放射性物質の放出はなく、環境への影響はない」と言う。クラゲを取り除いた後、8分後に除塵機を再起動させたが、出力は82万キロワットから77万キロワットに低下させたまま運転を再開した。冷却用海水のトラブルは原発の命取りにもなる可能性がある。

●世羅町議会が上関などの原発中止意見書

広島県世羅町議会は、山口県上関町に建設が計画されている上関原発の新設を中止するよう政府に申し入れる意見書を可決した。意見書はさらに、「東日本大地震と津波により福島第一原発は大事故に至った。原発の安全性は確立していない」として、原発の新設、増設をしないように訴えている。また、既存の原発についても、新たな安全基準を作り総点検するよう求めた。山口県以外で上関原発の建設に反対する意見書が採択されたのは世羅町議会が初めてである。

●平生町議会も上関原発「凍結」を全会一致で可決

山口県平生町議会は、議員提案された上関原発凍結の意見書を全会一致で採択した。平生町は上関町の隣町で、意見書によると「平生町は全体が上関原発予定地から20km以内で、事故が発生すれば即、避難区域となり、町民は多大な被害をこうむる」ため、原発の新增

設をすべて凍結し、自然再生エネルギーへの計画的な転換を求めている。この意見書は、共産党議員の発案だったが、案の原発建設「中止」を「凍結」と修正し、全会一致とした。議員の一人は中国電力の社員でもあったが、意見書に賛成した。

●山口県知事 埋め立て期限延長に否定的

二井山口県知事は、今月の県議会の質問に答える形で、上関原発建設計画を進める長島田ノ浦の埋め立て工事許可が来年10月に期限が切れることについて、今のままでは期限の延長は難しいと、答えた。実質的に上関原発建設に否定的な考えを示したことになる。ただ、まだ中国電力から埋め立て許可延長申請が出ているわけではないので、あくまでも現時点での観測的な発言であるが、これまでの原発推進一辺倒だった知事の姿勢にはかなり大きな変化があったと思える。

●中国電力 株主総会で上関原発推進を表明

6月29日に開かれた中国電力の株主総会で、中国電力が上関原発建設から撤退し、自然エネルギーへの転換を図ることを提案した株主に対して、山下社長は、原子力は必要な技術で、これからも大事に育てる必要があると、上関原発建設を今後も推進していくことを強調した。総会会場の外側には祝島の住民ら約100人が、原発からの撤退を求めて座り込んだ。一方、それを中傷する右翼たちが街宣車で「中国電力頑張れ」「お前ら 電気を使うな！」などとわめき声を上げていた。総会屋になりきれなかった右翼たちが中国電力から何ほどの施しをもらうために、集まっているのだろうか。

●真紅の熱帯魚 周防灘で捕獲 水温の上昇が原因か

山口県周防大島の沖で、漁業者が見たこともない真っ赤な魚を漁獲し、広島県廿日市市の瀬戸内海区水産研究所に持ち込んだ。この魚は、体長約27cmで、ハウセキキントキという和名の魚と判明した。ハウセキキントキは、熱帯や亜熱帯のサンゴ礁に棲むキントキダイの仲間、非常に濃い朱色をしており、美しい。瀬戸内海では過去に数例の捕獲が記録されているが、非常に珍しいという。瀬戸内海の水温がここ数年上昇を続けていることから、豊後水道を經由して瀬戸内海に入ってきたのだらうと推定されている。

●吉野川河口でコアジサシが繁殖始める

絶滅危惧種の渡り鳥、コアジサシが徳島県吉野川河口の干潟で繁殖を始めた。これから巢

作り、産卵、育児が行われる。現在は、旧吉野川第十樋門の下流域で、鮎を狙って水中に飛び込む姿が頻繁に見られるようになっている。雛が育って、9月になると越冬地の東南アジアに向けて旅立つ。

●海上保安庁が紙芝居で環境保全と安全を呼びかけ

愛媛県新居浜市の新居浜海上保安署は、近くの幼稚園の園児を対象に紙芝居で環境保全を呼びかける啓発事業を行い、同時に救命胴衣の使い方を披露し、安全教育を行った。これは、毎年第6管区海上保安本部の瀬戸内海・宇和海クリーン作戦月間に合わせて行っているもの。紙芝居はウミガメがレジ袋をクラゲと間違えて食べ、苦しんでいるところを保安庁の巡視船に助けられるというもの。幼稚園児は興味深そうに見ていた。

●浦戸湾ノコギリガザミ 減少するか？ 稚ガニ放流中止

高知県浦戸湾におけるノコギリガザミ（地元名エガニ）の稚ガニを毎年放流していた独立行政法人の栽培漁業センターが、民主党政権の事業見直しによって今年から稚ガニの放流事業を中止したため、地元では、ノコギリガザミの漁獲量が減少するのではないかという危惧が上がっている。しかし、これまでの放流事業が果たしてどのくらい効果があったかについての検証はきちんとしたものが出ていない。放流事業の中止は、この事業の効果を検証する良い機会でもあるだろう。

【九州】

●諫早開門方法「概算要求までに決定」 筒井農水副大臣

国営諫早干拓事業で潮受け堤防締め切りと干潟干拓によって有明海の環境悪化を招いたとして、潮受け堤防の開門を要求する佐賀県などの漁業者が、国を相手に開門を求めている裁判で、地裁でも高裁でも開門調査を行えと言う判決が出たため、菅首相が上告を断念して高裁の決定を受け入れ、開門調査をするためのアセスメントなどを行っていたが、このたび、長期開門調査をするためにいくらかかるかという概算要求のための数字が農水省から公表された。その費用は、これまでの総事業費の半分以上の1077億円とされ、開門調査をしたくない農水省のサボタージュの一つと見られている。しかし、福岡高裁の判決で求められている2013年12月までの開門に間に合わせるためには、来年度予算から代替え農業用水の確保などにお金がかかるために、来年度予算に計上する必要があると、筒井副大臣が述べ、開門の方法などについて、概算要求までに決定するとした。開門方法について

は、農水省は「全開」から「大幅制限」までの4案を示しており、概算要求までに一つに絞る。

●農水省の開門アセス説明に怒号

農水省は諫早干拓事業の潮受け堤防排水門開門調査を実施するための環境アセスメントの中間報告会を開門に反対する諫早市の農民らを対象に行った。参加者は「開門は認められない」と怒号を挙げるなど、アセスの説明に拒否の姿勢を示した。参加した住民の多くは、開門差し止め訴訟を起こした原告が中心。これまで事業を進めてきた農水省が、一変して開門に踏み切った政権交代の余波に動揺する市民の姿を反映したものといえるだろう。これもすべて、不必要で有害としか思えない大型公共事業に固執してきた農水省官僚のやり方が大きな原因であった。もっと早く諫早湾干拓事業の中止を決めていれば、住民同士のこのような憎しみ合いはなかっただろう。被害者はいつも地域住民だ。

●長崎地裁が逆判決 開門を認めず

長崎県と佐賀県の漁業者らが、諫早干拓事業によって漁業が不振に陥ったため、潮受け堤防の開門を求めた訴訟で、長崎地裁の須田啓之裁判長は、先の福岡高裁とまったく逆に、干拓事業の公共性を優先し、漁業被害を一部のみに認め、開門を認めない判決を出した。判決では、コノシロ漁などに一定の被害を認めて国に補償金を支払うよう求めているが、一方で、アサリの養殖環境の悪化やタイラギ漁の不振、赤潮発生によるノリ漁業への影響などについては、因果関係を認めなかった。国が受け入れた福岡高裁の判断に真っ向から逆行する判決に、漁業者らは反発を強めている。原告らは、控訴する方針。一方、国もコノシロ漁への賠償支払いについて不服として控訴することを決めた。国さえも認めざるをえなかった諫早干拓事業の有明海全般への悪影響を、まだ干拓事業の公共性の方が優先するという裁判所の判断があること自体、不思議だ。海のこと、海の重要性をまったく理解していない裁判所や役所がまだまだ普遍的であることを知る結果となった。開門調査にも反対する訴訟が起こっており、簡単に海を殺しても、簡単には海を蘇生させない人間たちに、憤りと悲しみがこみ上げる。

●ムツゴロウが繁殖期 有明干潟で恋の跳躍

有明海干潟の人気者のムツゴロウが、繁殖期を迎えている。諫早干拓が社会問題になるにつれて有名になった有明海のムツゴロウの求愛ジャンプは、雄が雌を自分の巣穴に呼び込むためのもの。雌の前でうまく飛べた雄が、雌を巣穴に引き込んで、繁殖する。これからの干潮時には、あちこちでムツゴロウの愛のジャンプが盛んに見られる。

●天草のイルカウォッチングで ブルーツーリズム

熊本県天草市五和町にある通詞島近海で、地元の漁師が「通詞島体験倶楽部」を結成し、ブルーツーリズムの一環としての漁業体験や釣り、観光、海での遊びなどを体験してもらう試みが始まっている。その一つで、九州では有数の通詞島のイルカウォッチングが盛んに行われる。7月から始まるイルカウォッチングでは、地元の漁師が自らガイドをつとめている。旧来の漁業の先行きが見えない中で、地元の漁師や旅館経営者などが相談して始めたもの。9月30日まで参加者を募集して、続ける。通詞島周辺では野生のイルカが約200頭ほど棲んでおり、ウォッチングには最適な場所だ。地元の漁師もイルカを殺さないように定置網を張らず、イルカと共存してきた歴史を持つ。宿泊付きだと大人14500円、子供11500円。日帰りだと大人も子供も7500円で参加できる。申込は、天草市総合交流ターミナル施設「ユメール」へ。電話は0969-26-4011。

●馬毛島訓練 鹿児島県議会、反対意見書可決

在日米軍の再編に関わって、鹿児島県種子島西之表市に所属する馬毛島に米軍艦載機の離発着訓練場を建設し、岩国基地から艦載機が移転してくるという日米安保協議委員会（2+2）の協同文書について、西之表市では、反対の動きと同時に、地元経済界の一部には歓迎する意見も出始めている。一方、鹿児島県議会は、国に移転反対を訴える意見書案を全会一致で可決、提出する。意見書には、「地元の意向に反した馬毛島へのFCLP基地建設に反対する」と書かれ、2009年7月の定例会でも反対陳情を全会一致で採択した経緯などが書かれている。今回の「頭越しの対応」に強く抗議し、地元の反対の意向を尊重するよう国に要請している。

天然記念物であるマゲシカが棲む馬毛島は、島の99%を買い占めた一企業が、地元の意見をまったく無視し、自然環境を完全に破壊しながら飛行場建設を推し進めている。何度か島の自然環境を調査しようと研究者や西之表市の環境保護団体が入島を試みたが、企業が警官の立入さえも拒むかたくなな拒否の姿勢を見せて、実現していない。

●馬毛島問題 地元協議会が国との面会へ

鹿児島県種子島の熊毛地区の1市3町でつくる米軍基地等馬毛島移設問題対策協議会が結成され、米軍移転反対の意志を明らかにしているが、この度、日米安保協議委員会（2+2）で合意した馬毛島への米軍艦載機移転についての計画を防衛省が説明したいと言ってきたことについて、協議した結果、報道陣への公開を条件に、面会に応じることに決めた。日程はこれから調整する。また、同時に（2+2）の協同文書に地元の了解も地元への説明もないままに馬毛島への移転が書き込まれたことについては、防衛省の面会の前に、防衛省に抗議することも決めた。防衛省の面接では、決めたから受け入れて欲しいという以

外の言い方はないはずだが、地元協議会は何か反対できる方策を持っているのだろうか。それとも、すでに90億ともいわれる特別交付金のつり上げが目的なのだろうか。辺野古の米軍基地から新しい米軍基地がまた作られようとしている。自然豊かで、生物多様性の高い黒潮のまっただ中の海が、またまた戦争のために壊されようとしている。

●馬毛島訓練 ネットでも反対の署名活動開始 住民団体

鹿児島県種子島西之表市の馬毛島に、米軍艦載機の発着訓練場を作り、岩国基地から米軍機が移転してくるという事態を迎えて、地元では反対行動が盛んに取り組まれている。「馬毛島の軍事施設化を許さない屋久島の会」では、世界自然遺産となった屋久島の目と鼻の先で米軍基地が建設されることに強い反対の意志を示して、反対署名活動に入った。同会では、ネット署名は、始めて29時間のうちに786人が署名し、2分に一人の割合で署名が集まっているという。署名は、ファックスでも郵便でもネットでも可能です。署名用紙のダウンロードもネット署名も、<http://www.realwave-corp.com/> でできる。署名は7月上旬で一度締め切る予定。

【沖縄】

●座間味島でサンゴが一斉に産卵

6月21日の夜、沖縄県座間味島近くの嘉比島のダイビングスポット周辺で、午後8時過ぎ、サンゴの一斉産卵が始まった。産卵開始後10分ほどで、付近の海面はサンゴから放出された卵塊で覆い尽くされた。産卵した場所は、ダイビング協会でもっとも重要な保全区域とされていたところ。ダイビング協会では毎年地道な保全活動を行って、オニヒトデの駆除などを行っているという。5月末という早い時期に沖縄全域を直撃した台風があり、今年は産卵が心配されたが、ほぼ予想通りの産卵が行われ、関係者はホッと胸をなで下ろしている。

●ただちに控訴へ 「国の勝訴ありき」の判決

沖縄県石垣市の新空港建設にともなう自然破壊に反対し、裁判で空港建設差し止めを求めた石垣新空港裁判は、5年間という長い審理と裁判官の現地視察まででありながら、原告たちの訴えを一顧だにしない「はじめに国の勝訴ありき」の判決で、原告たちは怒りに震えた。原告はただちに控訴の手続きに入った。控訴に必要な裁判関連費用は、カンパでまかなう予定。カンパを以下のところで呼びかけている。mail@shiraho35.com

2. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報

【国際】

● ガラパゴス体験学習ツアー

南米ガラパゴス諸島の保全活動を支援しております NPO「日本ガラパゴスの会」です。当会では、ガラパゴス諸島の魅力を知ってもらい、その保全への理解を深めることを目的に、毎年「ガラパゴス体験学習ツアー」を行っています。今年も以下の期間で、第7回目のツアーを行う予定です。

- 2011年8月18日（木）～8月28日（日）

参加人数	10～11名	12～13名	14～15名	一人部屋利用追加費用
一人当りの見積り費用 (二人一部屋使用)	¥513,000	¥495,000	¥483,000	¥43,000

興味のある方は以下をご覧ください。<http://www.j-galapagos.org/activities/tour/2011.html>

(現在担当者は海外におります。問い合わせはメールでお願いします。)

E-mail: info@j-galapagos.org (private:o-tama@za3.so-net.ne.jp)

【全国】

鎌仲ひとみ監督作品 映画「ミツバチの羽音と地球の回転」、映画「ぶんぶん通信」、瀨瀬あや監督作品 映画「祝（ほうり）の島」の上映予定はまとめて日程と場所のみを書くことにしました。詳しくはそれぞれの公式ホームページをご覧ください。

● 鎌仲ひとみ監督作品 映画「ミツバチの羽音と地球の回転」上映予定

- 7月1日（金） 吹田市（大阪）、吉祥寺（東京）、横浜市（神奈川）
- 7月2日（土） 都城市（宮崎）、岐阜市（岐阜）、名古屋市（愛知）
- 7月3日（日） 栗東市（滋賀）
- 7月6日（水） 国立市（東京）
- 7月8日（金） 武豊町（愛知）
- 7月9日（土） さいたま市（埼玉）、小林市（宮崎）、小金井市（東京）、光市（山口）、長野市（長野）
- 7月10日（日） 和光市（埼玉）、山口市（山口）、山形市（山形）、御代田町（長野）
- 7月12日（火） 鎌倉市（神奈川）
- 7月15日（金） 小平市（東京）

- 7月16日(土) 飯能市(埼玉)、日野市(東京)、横浜市(神奈川)、沼津市(静岡)
- 7月17日(日) 津市(三重)、周南市(山口)
- 7月18日(月) 長野市(長野)、岡山市(岡山)、花巻市(岩手)、江東区(東京)
- 7月19日(火) 長野市(長野)
- 7月20日(水) 横浜市(神奈川)
- 7月23日(土) 鳥栖市(佐賀)、神戸市(兵庫)、東金市(千葉)、倉敷市(岡山)
- 7月24日(日) 新庄市(山形)、立川市(東京)
- 7月27日(水) 高松市(香川)
- 7月30日(土) 七飯町(北海道)、大月市(山梨)、広島市(広島)、会津若松市(福島)
- 7月31日(日) 京丹波町(京都)、函館市(北海道)、名古屋市(愛知)

●鎌仲ひとみ監督作品 映画「ぶんぶん通信」上映予定

- 7月5日(火) 浦安市(千葉)
- 7月9日(土) 市川市(千葉)、南魚沼市(新潟)
- 7月15日(金) 東村山市(東京)
- 7月16日(土) 大崎上島町(広島)
- 7月21日(木) 八千代市(千葉)
- 7月25日(月) 千葉市(千葉)
- 7月29日(金) 新見市(岡山)

●瀬織あや監督作品 映画「祝の島」上映予定

- 7月2日(土)～8日(金) 仙台市(宮城)
- 7月2日(土) 美馬市(徳島)
- 7月3日(日) 南国市(高知)
- 7月4日(月) 高岡郡(高知)
- 7月7日(木) 高知市(高知)
- 7月8日(金) 港区(東京)
- 7月9日(土)～22日(金) 中野区(東京)
- 7月9日(土) 豊島区(東京)、高知市(高知)
- 7月10日(日) 高知市(高知)、
- 7月15日(金) 掛川市(静岡)
- 7月16日(土) 尼崎市(兵庫)、浜松市(静岡)
- 7月16日(土)～未定 長野市(長野)
- 7月17日(日) 静岡市(静岡)、浜松市(静岡)
- 7月18日(月) 周智郡(静岡)
- 7月19日(日) 菊川市(静岡)、浜松市(静岡)

7月20日(水) 浜松市(静岡)
7月21日(木) 熱海市(静岡)
7月22日(金) 佐賀市(佐賀)、三島市(静岡)
7月23日(土) 小金井市(東京)、佐倉市(千葉)
7月24日(日) 袋井市(静岡)
7月25日(月) 浜松市(静岡)
7月26日(火) 浜松市(静岡)

【関東】

●第60回OWS海のトークセッション

「貝殻を脱いだ巻き貝～ウミウシの生きる道」

ゲストスピーカー 中野理枝さん(琉球大学大学院)

要旨:ウミウシはきれいな色模様が人気の巻き貝の仲間です。巻き貝はふつう堅い貝殻を持ち、その殻で捕食者から自分の身を守っていますが、ほとんどのウミウシには貝殻がありません。触ってみるとふにゃふにゃで、いかにも食べやすそうです。ところがウミウシを好んで狙う捕食者は今のところ見つかっていません。ウミウシはどうやって自分の身を守っているのでしょうか?美しい色のくにくにゃボディに秘められたウミウシの生きる

知恵についてお話しします。(中野理枝)

開催日 2011年7月12日(火) 19:00~20:30(18:30受付開始)

会場 モンベル渋谷店 5Fサロン TEL03-3283-3536

参加費 非会員 : 800円 OWSメンバー(事前申込): 500円

詳細・申込み OWS ホームページからお申込ください。お電話でも受け付けます。

⇒ <http://www.ows-npo.org/activity/ts/index.html#ts60>

●三番瀬「生き物見つけよう」

日時 : 2008年7月21日 10時~17時

場所 : 三番瀬

資料代 : 一家族 : 200円

プログラム

9:30~10:00 参加受付

- 10:00~10:20 開会・生きもの紙芝居
- 10:20~12:30 生き物を見つけるラリー(歩く・見る・顕微鏡で見る)

- 13:00～14:00 子どもエイサの舞い（生物多様性の人形劇？）
- ※10:00～15:50 写真展示
- 14:00～14:30 ラムサール・トーク
- 14:30～15:30 クリン・アップ作戦
- 15:30～16:30 会場のあと片付け
- 16:30～ 閉会
- 17:00～ 自由に～夕日を楽しもう！

アクセス：京成線：船橋駅下車 船橋駅からバス：船橋三番瀬海浜公園行き

バスの時刻：9:00 9:20 9:40 (乗車 20 分ぐらい)

主催：生きものを見つけよう実行委員会

連絡先：TEL&FAX 047-318-4807（岸本） Email：a1047w6@icnet.ne.jp

●「7/31 トーク&ライブ 未来に輝け上関・祝島 原発なくても大丈夫！」

3月11日、東日本を大地震が襲い、かねてから懸念されていた「原発震災」が現実のものとなってしまいました。今こそ原発の危険性を再認識し、再生可能なエネルギー資源による電力供給の道を求めていくべきです。瀬戸内海の西の端、山口県上関町では、30年近く前から上関原発の建設が計画されています。建設予定地対岸の祝島では、千年以上も続く伝統文化を守りながら、その一方で自然エネルギー100%構想を打ちたて、原発に頼らない自立した生活を目指す取り組みを始めました。私たちは、この祝島の試みに希望の光を見出し、全力をあげて応援していきたいと思っています。この祝島の取り組みが上関町全体、そして日本全体へと広がることを願って、トーク&ライブを企画しました。また、終了後パレードもあります。ぜひご参加ください。

■日時：2011年7月31日（日）13:00～15:40

■会場：東京ウィメンズプラザホール（青山）

- 東京都渋谷区神宮前5-53-67（渋谷駅下車徒歩12分 ・表参道駅下車徒歩7分）
- <http://www.tokyo-womens-plaza.metro.tokyo.jp/contents/map.html>

■参加費：前売1,000円 ・当日1,200円

■プログラム

- トーク&ライブ 13:00～15:40
 - トーク
 - 氏本長一（祝島未来航海プロジェクト代表）

- 「祝島の取組みについて」
- 菅波完（高木仁三郎市民科学基金事務局）
 - 「原発の危険性・福島の事例をもとに」
- 大沢ゆたか（立川市議会議員）
 - 「電力の自由化・立川市の取組み」
- 座談会「原発なくても大丈夫」
 - 鎌仲ひとみ／氏本長一／内田ボブ
- ライブ
 - 内田ボブ
 - 梶原徹也（THUNDERBEAT ex.ザ・ブルーハーツ） & ノブトウマサザネ（天空オーケストラ）

■パレード 16:00～

- 渋谷や青山を通るコース（予定）です。詳細は web にて告知いたします。
 - homepage : <http://kaminoseki.blogspot.com/> （上関どうするネット）
 - <http://www.parc-jp.org/> （PARC）
 - twitter : http://twitter.com/#!/demo_yasai （野菜デモ）
- 思い思いのそれぞれのスタイルでご参加ください！

■申込先：インターネット： <http://goo.gl/pQjIE>

- E-mail : dousuru_net@mail.goo.ne.jp Fax : 03-3357-3801
- お申し込みの際は、お名前・ご住所・連絡先をお知らせください

■主催：上関原発どうするの？～瀬戸内の自然を守るために～（略称：上関どうするネット）

■パレード共催：アジア太平洋資料センター(PARC)&PARC 自由学校野菜デモ部

- お問い合わせ：E-mail : dousuru_net@mail.goo.ne.jp （上関どうするネット）
- Tel : 03-3357-3800 （原子力資料情報室/担当：伴・永井）

【東海・中部】

● うみべえ自然観察講座 「大浜海岸の石はどこから来たの!？」

大浜海岸には大小さまざまな石が転がってるね。これはどこから来たんだろ？ 石ってどうやって生まれたんだろ？ どうやってできたんだろ？

みんなで海岸を歩いてたくさんの種類の石を拾おう。

石のふるさとを探ろう！

日時：7月10日（日）**9時集合**～11:30（終了予定）※雨天決行

【対象者】 小学校4年生～6年生

※ 小学校1年生～3年生は保護者同伴なら参加できます。

【募集人数】 定員40名（申し込み先着順）

【集合場所】 大浜ロータリーから100m東側の公園。（自家用車の駐車は可能です。）

【参加費】 無料

【持ち物】 ①筆記用具 ②拾った石を入れる丈夫な袋（またはバケツ）

【申込み】 電話にてお申込みください。井田宛 054-261-0717（井田製材株）

静岡・海辺づくりの会 自然観察部

●名古屋港水族館 第3回 見てみよう！河口の泥地 干潟の生き物たち

日時：2011年7月2日(土)

場所：一色干潟(吉良吉田海岸)

応募締切：平成23年6月18日(土)必着

水族館から現地まで貸切バスを利用します。途中からの参加および早退はできません。

昼食は各自ご持参ください。

【近畿】

●淀川自然観察会 第168回 淀川・十三干潟の野鳥観察会

<開催日>7月24日（日）雨天実施

<開催場所>淀川右岸・十三干潟付近<集合>9:00 阪急十三駅東改札口前<解散>11:00 頃十三干潟付近で

<持ち物>筆記用具、あれば双眼鏡、野鳥図鑑、小網、生きものを入れる容器など

<参加費>大人100円、中学生以下50円

<当日連絡先>中野 090-2350-2003

<その他>水溜りに入るのので、長靴など濡れてもよい足元で

<☆>野鳥観察の他、河原に出来た水溜りを覗いてみよう！

<問合せ>中野 072-444-4312(20:00～22:00)

●海のふしぎ観察会 シュノーケリング体験・海の中の生き物観察会

<開催日>8月6日（土）少雨決行

<開催場所>せんなん里海公園（泉南市）<集合>9：30 頃 南海「淡輪」駅改札口<解散>13：00 頃 現地

<定員>30 名（応募多数の場合は抽選）

<持ち物>水着、水着の上から着る T シャツ等、タオル、弁当、水筒

<参加費>大人 500 円、小中学生 300 円

<申込み>メールでの申込みのみ受け付けています。umi@nature.or.jp に 1. 全員のお名前とふりがな、2. 年齢または学年、3. 住所、4. 電話番号、5. メールアドレスを書いて、表題を「8/6 シュノーケリング参加希望」として送信してください。折り返し、抽選結果と詳細を連絡しますので、携帯メールの場合は nature.or.jp からのメールを受け取れるようにしてください。

<その他>泳げなくても参加できます。

<問合せ>申込先と同じアドレスにご連絡ください。

●磯と干潟の生きもの観察会 千葉県中央博物館分館「海の博物館」

海の博物館近くの海辺に行き、カニ類やヒトデ類、ウミウシ類などを観察しよう。珍しい海の生きものに出会え、楽しく海辺の環境を学ぶ人気の観察会だ。見たこともない生き物に出会えるチャンス！ 持ち物：ぬれても良い靴、帽子、お弁当。※日によって、体験の内容が異なるので、詳細は HP 参照 各日定員 30 名程度（要予約）

開催地 海の博物館 

所在地 〒517-0025 鳥羽市浦村町大吉 1731-68

開催期間 2011 年 5 月 22 日～8 月 28 日

料金 有料 小学生以上 800 円（入館料含）

アクセス(車) 伊勢西 I C より約 40 分

アクセス(公共交通) 近鉄・JR 鳥羽駅よりカモメバスにて約 35 分

駐車場 あり無料

問い合わせ先 海の博物館 TEL:0599 -32 -6006

※情報は予告なく変更になる場合がございます。観光イベントの中止や開催期間の変更などに関しては、問い合わせ先にご確認ください。

【中四国】

●「海の生き物教室」 上関長島

上関原発予定地田ノ浦で「海の生き物教室」を開催します。現地祝島のかたがたや全国のみなさんの抗議行動、そして非常に残念なことですが、福島第一原発事故の影響で今年も田ノ浦湾は埋め立てられず、アカテガニが子供を産む夏が迎えられます。ナメクジウオやほかの生き物たちも元気に暮らしています。その感謝の意味も籠めて、下記のとおり、海の生き物教室を開催します。たくさんの命のつぶやきに耳をすませてください。アカテガニが大潮の夜に海に向かって仔を産む様子や夜、活動するゴカイの観察、貝殻標本づくりなど、夏休みの子供たちにも楽しい体験ができる企画です。ガイドをしてくださるのは、いずれも専門の先生たちです。

1. 日程

7月30日(土) 10:30 上関町室津港駐車場集合

原発予定地 田ノ浦のログハウス「人々のつどいの家」に移動

*人々のつどいの家；祝島島民の会管理。全国からのカンパと

祝島のかたがたの労力で建てられたログハウス

海岸生物採集・標本作り体験 *指導；貝類多様性研究所 山下博由さん

夜のゴカイ・アカテガニ放仔観察*指導；佐藤正典さん（鹿児島大学）

人々のつどいの家で宿泊

7月31日(日) 自然に負荷を与えないシュノーケリング教室(予定) *プロのダイバーに指導いただく予定です 14:00 解散

2. 参加費 大人 15,000円程度(予定；メニューによって変更あり)(ガイド料、船チャーター料、食費・「人々のつどいの家」利用料等含む) 子供 8,000円程度

3. 申し込み締め切り 7月15日(金)

4. 申し込み先

高島美登里 携帯 090-8995-8799 Fax 0820-62-0710 midori.t@crocus.ocn.ne.jp

森田修 携帯 Tel 090-4695-1290 Fax 0820-47-2120 yo.morita@extra.ocn.ne.jp

【九州】

●雲仙・天草国立公園 海ほたるの観察会

目的：雲仙天草国立公園である上天草市の夜の海に光る「海ほたる」を観察し、実際に触れることにより、自然の不思議さ、偉大さ等を感じ自然環境について考えることを目的とする。

1)開催日時：7月23日(土)・8月6日(土)・8月22日(月)の3回 19:00~21:00

2)開催場所：松島町樋合海水浴場

3)集合場所：現地(樋合海水浴場の駐車場)パールサンビーチ

4)募集人員：100名

5)受付方法：電話予約 天草ビジターセンター TEL 0969-56-3665

開催日の3日前までに申し込むこと。但し定員になり次第締め切り。

6)参加料：一人500円(保険料含む)

7)持参品：海ほたるを入れる容器(ジャム等が入っている広口のビン)捕獲用の網をお持ちの方は、ご持参下さい。服装については、足は膝まで出せる服装が良い。海の中に入って海ほたるを捕獲するので、濡れても良い服装。

8)内容 19:00 受付開始 19:30 開会・海ほたるについて説明・諸注意

19:45 海ほたる観察会開始(海ほたるを観察したり、捕獲したりする)

21:00 終了・解散

※時間はあくまで目安です。予定通り進行しない場合がございます。※悪天候の場合、当日の午前中に中止の連絡をいたします。

主催：熊本県天草ビジターセンター(NPO 法人上天草アクティブセンター)、熊本大学沿岸環境科学教育研究センター合津マリンステーション、市民ボランティア「フィールド・スター」・天草パークボランティア協会

後援：天草漁業協同組合上天草総合支所・上天草市

3. きらめく動物たちの命と海 【久保田信の白浜だより(その8)】

漂着昆虫と海浜性昆虫

漂着した色々な昆虫類

2011年5月末に、早々と台風2号が紀伊半島沿岸に影響を与えた。熱帯系のサツマゴキブリのように台風の影響で過去に漂着した昆虫類には、大きなオニヤンマの仲間が1個体、2004年8月28日に満潮線に横たわっていた。アカトンボ類は時々漂着するが、この類は初めてだった。しかし、普通種のオニヤンマで、体長10cmほどもあり、日本のトンボ類では最大種である。日本全国にいるが、南西諸島には南方系の4種の近縁種(カラスヤンマ、ミナミヤンマ、オキナワミナミヤンマ、タイワンヤンマ)が分布する。生きている時は、いずれも澄みきった緑の大きな目を持ち、小さな虫を捕まえて食べている。この緑の複眼は、1万個の小さな目が集合したもので、上半分は遠くを、下半分は近くを見るという遠近両用のすぐれものだ。

オニヤンマは、産卵も独特のやり方をする。雌が単独で、流れの緩やかな浅瀬に体を

垂直に立て、長い産卵管を砂泥中に突き刺して産む。長い場合、10分もかけて飛び上がったり、降りたりの上下運動を繰り返す。他には、河川の中流にいるコオニヤンマのヤゴ（乾風 登氏同定）をはじめ、アゲハチョウやクマゼミ、背中に紋のあるアトモンアオゴミムシ（和歌山県立自然博物館の的場 績氏同定）などが流れ着いた。

北浜”に、稀だが、アケビコノハの翅だけが打ち上がることもある。一度に複数個体の翅が漂着した記録がある。2個体は表側が枯葉にそっくりな前翅で、残りの1個体は独特の斑紋をもった後翅で、“北浜”の船着場脇の砂の上に2008年11月26日の午後に打ち上がっていた（図）。それらは、風波によって1箇所に集められていた。その前後の日にはアケビコノハの打ち上げは見られなかった。しかし、既に同年11月15日に1個体の後翅が“北浜”で打ち上がっていた。この11月には上記の4日の他に7, 10, 12, 28, 29日にも調査したが、それら5日間にアケビコノハの漂着は見られなかった（久保田, 2009）。

アケビコノハは果実を吸汁するヤガ科の一種で、さまざまな果樹の実る季節に多く発生する。しかし、実験所構内およびその付近で本種の成体や幼虫を目撃したことはない。今回のように他地域でも浜辺に翅が打ち上がる可能性があるのかは不明だが、当地域では、海岸への漂着が起きやすい何らかの要因があるものと推察される。

“北浜”でみかける昆虫類

海岸の満潮線付近には打ち上げ物がよくたまっている。そのような所で頻繁に見かけるのが、甲虫のゴミムシダマシ類で、筆者が調査している漂着物と密接な関係にある。海産動物の乾燥した死骸などを食べており、いわば“海岸の掃除屋”である。北浜では、ハサミムシやウミベアカバネハネカクシなども見かけるが、それらより動きがのろいのがニセハマヒョウタンゴミムシダマシだ。この甲虫は人の気配を感じると砂に潜って逃げてしまう。だが、潜っても深くは潜行しないので、居場所がすぐ分かり、容易に採集できる。北浜では、2000年に初めてこの甲虫の存在に気がついて以来、毎年、きまって見かける。このような観察は、南紀生物同好会の「くろしお」誌22号に、的場績氏と一緒に報告した（久保田・的場, 2003）。

ゴミムシダマシ科は、甲虫類の中では形態が最も変化に富んでいる分類群であるが、色彩は地味で黒色や黒褐色の単一色のものが大半である。ちなみに、この科の名称は、「黒い虫」という意味。和名はゴミムシ科とよく似たものが多いことによる。海岸の砂浜で生活するこの仲間には、他には、ホネゴミムシダマシやホソハマゴミムシダマシなどが知られている。ウミアメンボ類のように海中にこそ進出していないものの、海辺に進出した虫



として、海浜には、ハンミョウ類、オサムシ類、ゾウムシ類、シデムシ類などに海浜性の種がいくつか知られている。

図. 和歌山県白浜町の京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”に漂着したアケビコノハの翅

4. 事務局便り：

- この「うみひろも」は「海の生き物を守る会」のメールマガジンです。配信が迷惑と思われる方は事務局までご連絡ください。
- 企画案などその他なんでも本会の活動に関することは、事務局あてにお寄せください。
- このメールマガジンは、毎月1日と16日の2回発行の予定ですが、都合によって遅延や中止もあります。配信を希望する方、送りたい方がありましたらアドレスをお知らせください。また、パソコンを使えない環境の方には印刷体でもお届けします。その場合は、郵送料をご負担していただくことがあります。
- このメールマガジンは転載自由です。海の生き物に関心を持っている方に広く読んでいただくために転送をお願いします。ただし写真を別の目的で使用する場合は事前にご連絡ください。海の生き物や守る運動についての情報など、また各地で行われている海の生物の観察会、研修会、その他の行事に関する情報もお寄せください。「うみひろも」のバックナンバーは、ホームページからダウンロードできます。
- 本会は自然観察会や講演会を各地で実施しています。各地で開催を希望される方、開催をお手伝いできる方は、ご一報ください。また、各地の団体との共催も行います。ごいっしょに講演会や観察会をしたいと思われる団体からも提案をお受けします。
- 本会への寄付をお寄せください。寄付も会費も同じ銀行口座「ゆうちょ銀行 口座番号：10610-6673021 海の生き物を守る会」へお送りください。なお、送金される場合は、送金の内容について事務局にお知らせ下さい。

5. 編集後記

4年前の7月1日に、海の生き物を守る会は発足しました。初めは、会員も一桁台。あれ

から 4 年がたちました。思ったほど会員数は延びませんでした、それでも小さな会にしては、いろんな活動ができたといささか自画自賛したい思っています。メールマガジン「うみひるも」も、ほぼ毎月 2 回の配信が行えました。力を入れて書いたときもあれば、時間に追われて眠い目をこすりながらパソコンに向かった時もあったので、誤りなども目に付いた号もありました。読者にはそのような私の都合は分からないので、落胆させた時もあったのでは無いかと心配です。今後も「うみひるも」を継続していく決意ですが、東日本大震災以後、その他の活動が停滞しています。震災から 4 ヶ月が過ぎようとしており、そろそろ今年の活動を始めなければと考えているところですが、公私に多忙でもあり、みなさまのご協力を仰がねば何も始められそうもありません。ご協力の程、どうかよろしくお願いいたします。(宏)

海の生き物を守るためになにかしたい！というあなたに！

会員募集中です！

会員は本会の趣旨に賛同できる個人・団体とします。会費は個人 2,000 円／年、団体 20,000 円／年。匿名による参加も可能です。会員は、当会の名前を使って各地で海の生物とその環境を保護・保全する活動を行うことができ、そのための助成金申請をすることができます。活動は当会の発行するメールマガジンなどを通して広く通知されます。入会希望の方は、事務局 hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp (向井) まで、氏名、住所、メールアドレスをお知らせください。



メールマガジン『うみひるも』第 82 号

2011 年 7 月 1 日発行

発行&編集人「海の生き物を守る会」

代表 向井 宏

〒606-8244 京都市左京区北白川東平井町 23-1

グリーンヒル北白川 23

TEL&FAX:075-703-7205 メールアドレス：hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp

ホームページ URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

銀行口座：ゆうちょ銀行 口座番号：10610-6673021 海の生き物を守る会